

牛久：学校周辺に見る自然

第13号 牛久二小

2020年4月26日発行

< 春の校庭 ～⑧花だんの花 >

皆さん、こんにちは。牛久二小の春の校庭「^{ざっそう}雑草とそこに来る虫たち」、今回は花だんの花を^{しょうかい}紹介します。



キジカクシ科のオオアマナ(左)と、ユリ科のチューリップ(右)。

オオアマナは花が日本のアマナに似ていることからついた名ですが、「ベツレヘムの星」ともよばれます。以前はユリ科に含まれていましたが、今はヒヤシンスやスズランなどと同じキジカクシ科に分けられています。チューリップは今もユリ科。花の特徴に注目です。



キク科のノースポール(左)と、その花粉や蜜をなめるアシブトハナアブ(右)。ハチではありません。どこが違う？

ノースポールは、何のなにかまかすぐわかりますね？キク科のなかまで、よくミツバチやハナアブ、チョウのなかが来て、蜜や花粉を食べます。この日は、アシブトハナアブが花粉をなめていました。ハナアブのなかまはよくハチとまちがえられますが、どこが違うかわかりますか？ハナアブはハエに近いなかまで羽は2枚、複眼が大きく触角が短いなどの特徴があります。ハチは羽4枚、複眼が小さめで触角は長めです。針はないので、刺される心配もありません。でも、どちらか不明の時は気をつけて！



こちらは、ひたち海浜公園^{かいひんこうえん}で有名なネモフィラ^{いぜん がいかん とくちょう}。以前は外観からの特徴^{ぶんるい}をもとにした分類^かでハゼリソウ科^{い でん し}でしたが、今は遺伝子^{ぶんるい}をもとにした新しい分類^{しょうかい}で、11号で紹介したキュウリグサと同じムラサキ科^かに分けられています。形などの特徴^{とくちょう}をおぼえるには以前の分類^{いぜん ぶんるい}が便利^{べんり}なこともあるので、スペースがあればなるべく両方^かを書けるようにしたいと思います。

ムラサキ科のネモフィラ(左)。



こちらはおなじみのパンジー。スマイレ科^かのなかまですね。日本の野生^{やせい}のスマイレ(第2号)と比べると、ずいぶん大きさも色やもようも違いますね。これは、ヨーロッパ^{げんさん}原産^{げんさん}のいくつかのスマイレをもとに、園芸家^{えんげいか}が鮮やか^{あざ}で大きい、たくさんの花をつけるように交配^{こうはい}をして生み出されたものだそうです。

スマイレ科のパンジー(左)。



アブラナ科^かのムラサキハナナ(左上)とその蜜^{みつ}を吸^すうセイヨウミツバチ(右上:2011.4.26牛久市)。花粉^{かふん}をなめるアシブトハナアブ^{べつ}と別のハナアブ^{べつ}のなかまをとらえたハエトリグモ(左下:2018.3.31坂東市)。同じ花^かにピロードツリアブ^{べつめい} (右下)。

最後に、アブラナ科^かのムラサキハナナ。シヨカツサイとかオオアラセイトウという別名^{べつめい}もありますが、私はこの名^かが好きです。花卉^{かべん}は4枚^{まい}ですね。ハチなどがよく訪^{おとず}れます。【理科支援員:宮内】